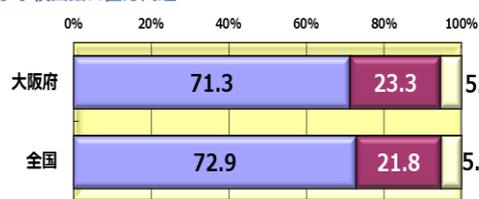


平均正答率は71.3%であり、基礎的・基本的な知識・技能の定着状況に課題が見られ、引き続き指導の充実が求められる。

正答率比較

小学校国語A区分問題



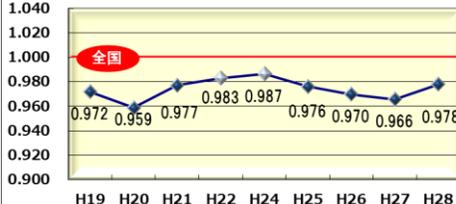
平均正答率は全国を1.6ポイント下回った

◆全国の平均正答率が72.9%であるのに対し、大阪府の平均正答率は71.3%であり、1.6ポイント全国を下回った。

対全国比は昨年度を上回った

◆各年度における平均正答率は年度ごとの問題の難易度に左右されるため、それらの条件を除いて比較する必要がある。そこで、全国の平均正答率を1とし、大阪府の平均正答率との割合で比較した。平成22年度と24年度は抽出調査だったため、単純に経年比較することは難しい。平成28年度は0.978となり、昨年度を上回った。

小学校国語A区分正答率対全国比経年比較



具体的な課題等

- ◇目的に応じて、図と表とを関係付けて読むことは、相当数の児童ができています。(公園案内図とパンフレットにある表とを関係付けて読み、希望に合うものを選択する。)
- ◆書き手の表現の仕方をよりよくするために助言することに課題がある。(ルール説明の表現について助言した内容として適切なものを選択する。)
- ◆濁音や促音を含む平仮名で表記されたものをローマ字で書くこと、拗音を含んだローマ字で表記されたものを正しく読むことに課題がある。(平仮名で表記された「りんご」「あさって」をローマ字で書き、ローマ字で表記された「hyaku」を平仮名で書く。)

正答数分布



正答数分布の様子は全国の状況と同傾向

- ◆全国は14問、大阪府は13問を頂点とした右よりの山型を描いている。
- ◆大阪府は0~10問では、全国よりも正答数分布の割合は高い。

無解答率比較

無解答率は全国の状況を0.1ポイント上回った

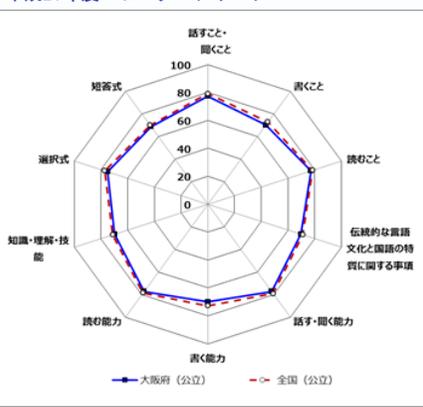
◆無解答率の全国との差を経年比較すると、平成24年度からの5年間は0.1~0.5ポイントになっている。今年度は全国状況を0.1ポイント上回り、昨年度より差は縮まった。

小国A区分・無解答率全国差の推移



領域・観点・問題形式別

平成28年度 レーダーチャート

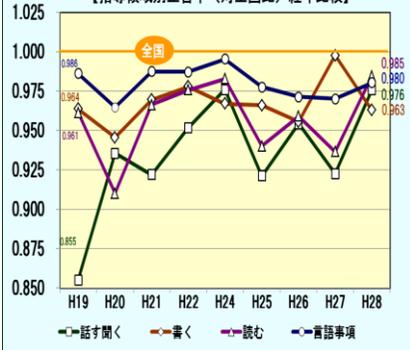


領域・観点・問題形式別の状況は概ね全国と同傾向

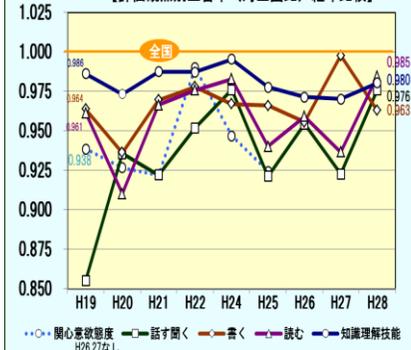
◆レーダーチャートの描くラインは、全国の状況とほぼ重なるように同傾向を示している。

◆今回の出題内容においては、全国、大阪府とも「話すこと・聞くこと」「読むこと」「話す・聞く能力」「読む能力」で高い値を示している。

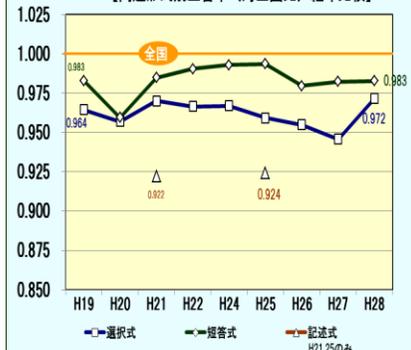
【指導領域別正答率(対全国比)経年比較】



【評価観点別正答率(対全国比)経年比較】



【問題形式別正答率(対全国比)経年比較】

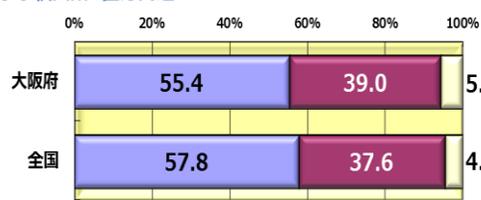


◆悉皆調査の結果と抽出調査の結果を、単純に経年比較することは難しいが、全国の平均正答率を1として、大阪府の平均正答率の割合を比較すると、領域、評価の観点、問題形式それぞれについて上のような傾向が見られる。(H19,20,21,25,26,27,28は悉皆調査, H22,24は抽出調査)

平均正答率は55.4%であり、話の展開に応じて質問するなど必要な情報を得たり、グラフなどを基に分かったことや自分の考えを的確に書いたりするなどの言語活動を取り入れた指導の充実が求められる。

正答率比較

小学校国語B区分問題

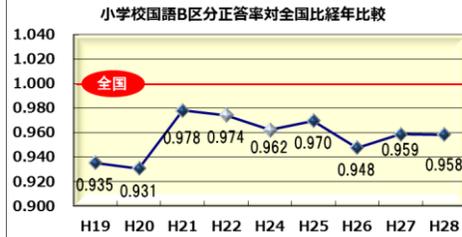


平均正答率は全国を2.4ポイント下回った

◆全国の平均正答率が57.8%であるのに対し、大阪府の平均正答率は55.4%であり、2.4ポイント全国を下回った。

対全国比は昨年度とほぼ同じ

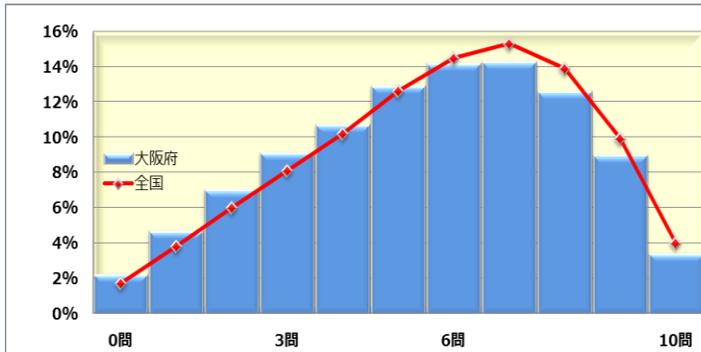
◆各年度における平均正答率は年度ごとの問題の難易度に左右されるため、それらの条件を除いて比較する必要がある。そこで、全国の平均正答率を1とし、大阪府の平均正答率との割合で比較した。平成22年度と24年度は抽出調査だったため、単純に経年比較することは難しい。今年度は0.958となり、昨年度とほぼ同じだった。



具体的な課題等

- ◆話し手の意図を捉えながら聞き、話の展開に沿って質問することに課題がある。(スーパーマーケットの店長へのインタビューメモを基にして、話の展開に沿った質問を書く)
- ◆目的や意図に応じて、グラフや表の結果を基に、自分の考えを書いたり、文章構成の効果を捉えたりすることに課題がある。(「早ね早起き」活動の課題、課題に対する解決方法、成果について、適切なものを選択したり書いたりする)
- ◆目的に応じて、文章の内容を的確に押さえ、自分の考えを明確にしながら読むことに課題がある。(「パン職人」について、紹介したい内容をまとめて書く)

正答数分布



正答数分布の様子は全国の状況と同傾向

- ◆全国、大阪府とも7問を頂点とした右よりの山型を描いている。
- ◆大阪府は0～5問では全国よりも正答数分布の割合は高い。

無解答率比較

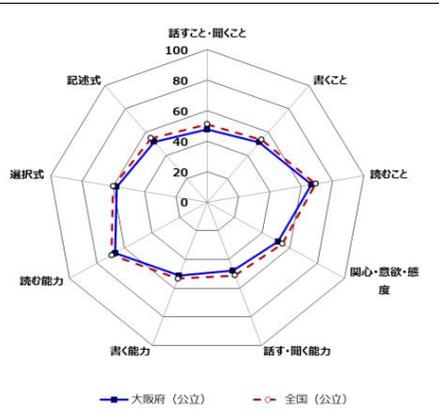
無解答率は全国を1.0ポイント上回った

◆無解答率の全国との差を経年比較すると、平成24年度からの5年間は0.7～1.2ポイントになっている。今年度は全国を1.0ポイント上回り、昨年度より差は広がった。



領域・観点・問題形式別

平成28年度 レーダーチャート



領域・観点・問題形式別の状況は概ね全国と同傾向

◆レーダーチャートの描くラインは、全国の状況とほぼ重なるように同傾向を示している。

◆今回の出題内容においては、全国、大阪府とも「話すこと・聞くこと」「書くこと」「関心・意欲・態度」「話す・聞く能力」「書く能力」「記述式」で低い値を示している。



◆悉皆調査の結果と抽出調査の結果を、単純に経年比較することは難しいが、全国の平均正答率を1として、大阪府の平均正答率の割合を比較すると、領域、評価の観点、問題形式それぞれについて上のような傾向が見られる。(H19,20,21,25,26,27,28は悉皆調査、H22,24は抽出調査)

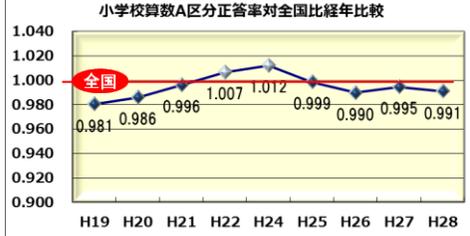
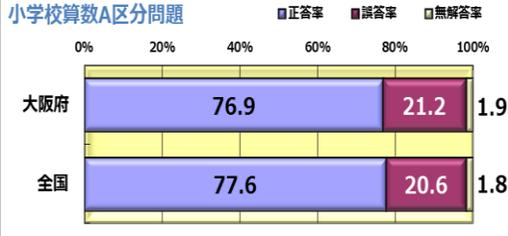
小学校算数 A

区分問題 (主に「知識」に関する問題)

平均正答率は76.9%であり、各設問を個別に見ると継続的な課題が見られるものがあり、引き続き定着を図る取組を進める必要がある。

正答率比較

小学校算数A区分問題



平均正答率は全国を0.7ポイント下回った

◆全国平均正答率が77.6%であるのに対し、大阪府の平均正答率は76.9%であり、0.7ポイント全国を下回った。

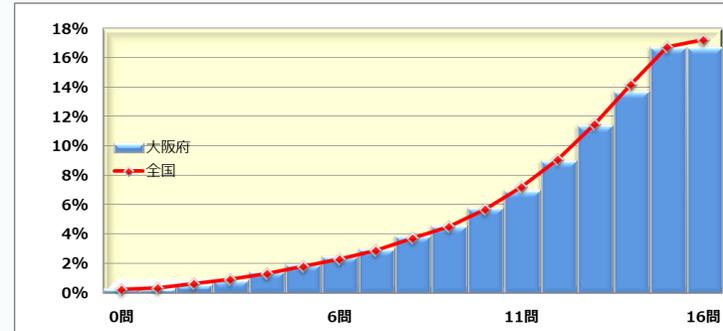
対全国比は昨年度を下回った

◆各年度における平均正答率は年度ごとの問題の難易度に左右されるため、それらの条件を除いて比較する必要がある。そこで、全国平均正答率を1とし、大阪府の平均正答率との割合で比較した。平成22年度と24年度は抽出調査だったため、単純に経年比較することは難しい。今年度は0.991となり、昨年度を下回った。

具体的な課題等

- ◇除法における計算の確かめの方法の理解は、相当数の児童ができています。(小数の除法の結果を乗法を用いて確かめるとき、あてはまる数値の組み合わせを書く)
- ◇整数・分数の計算をすることは、相当数の児童ができています。(905-8、(2/9)×3)
- ◇数の大小関係とその表し方については、相当数の児童ができています。(2つの数の大小関係を表す不等号を書く)
- ◆除数が1より小さいとき、商が被除数より大きくなることへの理解に課題がある。(□÷0.8の商の大きさについて、正しいものを選ぶ)
- ◆単位量当たりの大きさを求める式を立てることに課題がある。(8m²に14人座っているシートについて、1m²当たりの人数を求める式を書く)
- ◆1を超える割合を百分率で表す場面において、基準量と比較量の関係の理解に課題がある。(定員と乗っている人数の割合を、百分率を用いた図に表わすとき、当てはまる数値の組み合わせを書く)

正答数分布



正答数分布の様子は全国の状況と同傾向

- ◆全国は16問、大阪府は15～16問を頂点とした左歪曲分布である。
- ◆大阪府は4～10問では、全国よりも正答数分布の割合は高い。

無解答率比較

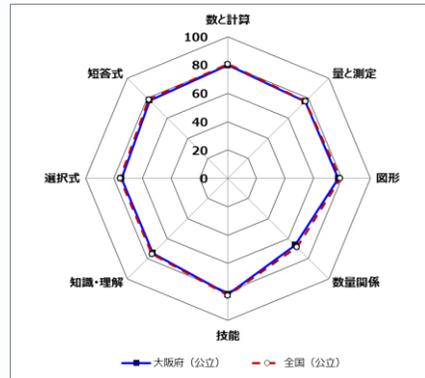
無解答率は全国の状況を0.1ポイント上回った

◆無解答率の全国との差を経年比較すると、平成24年度からの5年間は-0.1～0.1ポイントになっている。今年度は0.1ポイントとなり、昨年度と同じ状況であった。



領域・観点・問題形式別

平成28年度 レーダーチャート



領域・観点・問題形式別の状況は概ね全国と同傾向

◆レーダーチャートの描くラインは、全国との状況とほぼ重なるように同傾向を示している。

◆今回の出題内容においては、全国、大阪府とも「数量関係」でやや低い値を示している。



◆悉皆調査の結果と抽出調査の結果を、単純に経年比較することは難しいが、全国平均正答率を1として、大阪府の平均正答率の割合を比較すると、領域、評価の観点、問題形式それぞれについて上のような傾向が見られる。(H19,20,21,25,26,27,28は悉皆調査、H22,24は抽出調査)

平均正答率は45.8%であり、筋道立てて説明したり、根拠を明らかにして説明することに課題がある。

正答率比較

小学校算数B区分問題



平均正答率は全国を1.4ポイント下回った

◆全国平均正答率が47.2%であるのに対し、大阪府の平均正答率は45.8%であり、1.4ポイント全国を下回った。

対全国比は昨年度を下回った

◆各年度における平均正答率は年度ごとの問題の難易度に左右されるため、それらの条件を除いて比較する必要がある。そこで、全国平均正答率を1とし、大阪府の平均正答率との割合で比較した。平成22年度と24年度は抽出調査だったため、単純に経年比較することは難しい。今年度は0.970となり、昨年度を下回った。



具体的な課題等

- ◇示された条件を基にほかの場合においても同じきまりが成り立つかを調べることは、相当数の児童ができている。(1辺が9cmの正方形の縦と横の長さを変えたときの面積を求める式と答えとして、ふさわしい数値の組み合わせを書く)
- ◆示された式の中の数値の意味を理解し、それを記述することに課題がある。(目標のタイムを求める式の中の0.4や0.3が表す意味を書く)
- ◆グラフから必要な情報を読み取り、それを根拠に、示された事柄が正しくない理由を、言葉や数を用いて記述することに課題がある。(2つのグラフを見比べて読みとった事柄として正しくない事柄について正しくないわけを書く)
- ◆示された除法の式を並べてできた形と関連付け、式の意味の説明を記述することに課題がある。(示された形をつくらせることができることを説明する式の意味を、数や演算の表す内容に着目して書く)

正答数分布



正答数分布の様子は全国と同傾向

- ◆全国は7問、大阪府は6～7問を頂点とした山型を描いている。
- ◆大阪府は0～5問では、全国よりも正答数分布の割合は高い。

無解答率比較

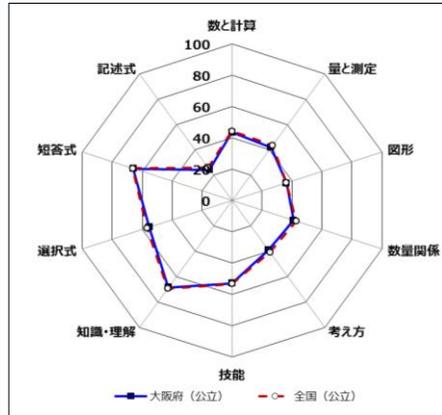
無解答率は全国の状況を0.4ポイント上回った

◆無解答率の全国との差を経年比較すると、平成24年度からの5年間は0.1～0.4ポイントになっている。今年度は全国状況を0.4ポイント上回り、昨年度より差は広がった。



領域・観点・問題形式別

平成28年度 レーダーチャート



領域・観点・問題形式別の状況は概ね全国と同傾向

◆レーダーチャートの描くラインは、全国状況とほぼ重なるように同傾向を示している。

◆今回の出題内容においては、全国、大阪府とも「記述式」で特に低い値を示している。

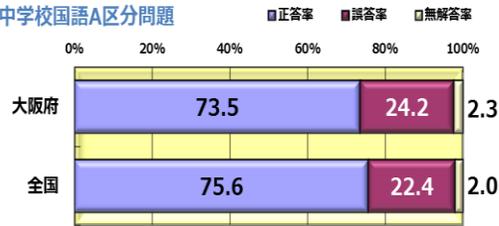


◆悉皆調査の結果と抽出調査の結果を、単純に経年比較することは難しいが、全国平均正答率を1として、大阪府の平均正答率の割合を比較すると、領域、評価の観点、問題形式それぞれについて上のような傾向が見られる。(H19,20,21,25,26,27,28は悉皆調査、H22,24は抽出調査)

平均正答率は73.5%であり、互いの発言を検討して自分の考えを広げたり、多様な語句について理解を深めたりする指導の充実が求められる。

正答率比較

中学校国語A区分問題



平均正答率は全国を2.1ポイント下回った

◆全国の平均正答率が75.6%であるのに対し、大阪府の平均正答率は73.5%であり、全国を2.1ポイント下回った。

対全国比は昨年度を下回った

◆各年度における平均正答率は年度ごとの問題の難易度に左右されるため、それらの条件を除いて比較する必要がある。そこで、全国の平均正答率を1とし、大阪府の平均正答率との割合で比較した。平成22年度と24年度は抽出調査だったため、単純に経年比較することは難しい。今年度は0.972となり、昨年度を下回った。

無解答率比較

無解答率の全国状況を0.3ポイント上回った

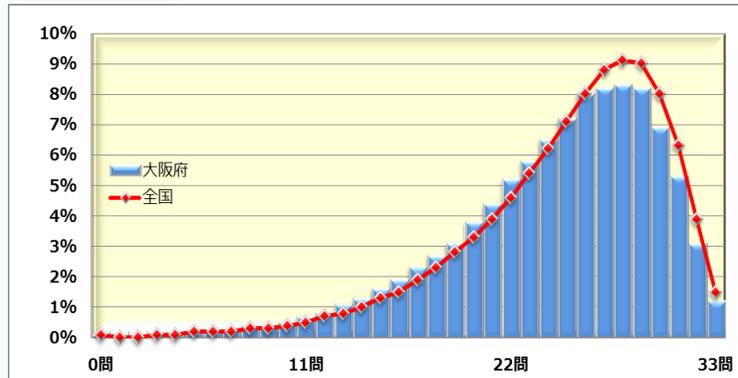
◆無解答率の全国との差を経年比較すると、平成24年度からの5年間は0.0~1.0ポイントになっている。今年度は全国状況を0.3ポイント上回り、昨年度より差は広がった。



具体的な課題等

- ◇相手や場に応じた言葉遣いなどに気を付けて話すことは、相当数の生徒ができています。(電話を受けた相手のことを考えた言葉を書く)
- ◇文脈の中における語句の意味を理解することや、登場人物の言動の意味を考え、内容を理解することは、相当数の生徒ができています。 (「ライスカレーの名に値する」の意味や、「私」にとってのライスカレーの説明として適切なものを選択する)
- ◆文の成分の照応について理解することに課題がある。(文章を書き直した意図として適切なものを選択する)

正答数分布

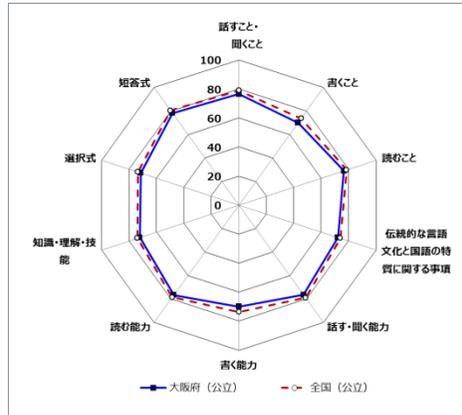


正答数分布の様子は全国の状況と同傾向

- ◆全国、大阪府とも28問を頂点にした右よりの山型を描いている。
- ◆大阪府は7~25問では、全国よりも正答数分布の割合は高い。

領域・観点・問題形式別

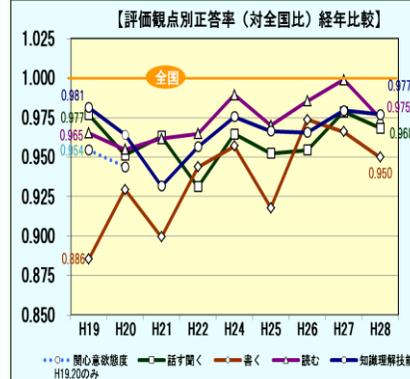
平成28年度 レーダーチャート



領域・観点・問題形式別の状況は概ね全国と同傾向

◆レーダーチャートの描くラインは、全国の状況とほぼ重なるように同傾向を示している。

◆今回の出題内容においては、全国、大阪府とも「話すこと・聞くこと」「短答式」で高い値を示している。

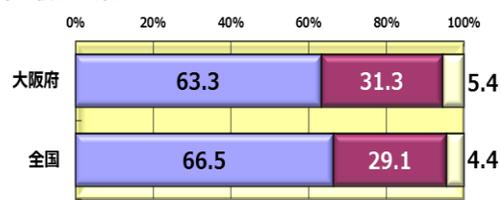


◆悉皆調査の結果と抽出調査の結果を、単純に経年比較することは難しいが、全国の平均正答率を1として、大阪府の平均正答率の割合を比較すると、領域、評価の観点、問題形式それぞれについて上のような傾向が見られる。(H19,20,21,25,26,27,28は悉皆調査、H22,24は抽出調査)

平均正答率は63.3%であり、根拠を明確にして自分の考えを書くことや課題の解決に向けて情報を収集し整理することについての指導の充実が求められる。

正答率比較

中学校国語B区分問題



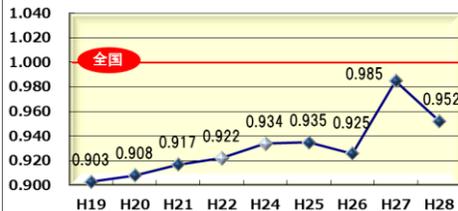
平均正答率は全国を3.2ポイント下回った

◆全国の平均正答率が66.5%であるのに対し、大阪府の平均正答率は63.3%であり、3.2ポイント全国を下回った。

対全国比は昨年度を下回った

◆各年度における平均正答率は年度ごとの問題の難易度に左右されるため、それらの条件を除いて比較する必要がある。そこで、全国の平均正答率を1とし、大阪府の平均正答率との割合で比較した。平成22年度と24年度は抽出調査だったため、単純に経年比較することは難しい。今年度は0.952となり、昨年度より下回った。

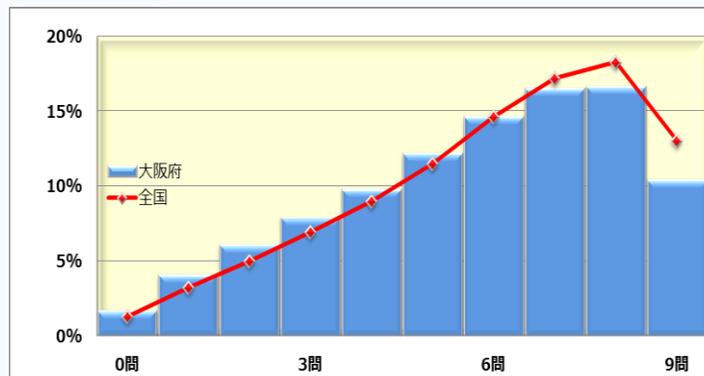
中学校国語B区分正答率対全国比経年比較



具体的な課題等

- ◆文章の構成や展開、表現の仕方について、根拠を明確にして自分の考えをまとめることに課題がある。(ちらしの表と裏の表現の工夫とその効果を書く)
- ◆本や文章などから必要な情報を読み取り、根拠を明確にして自分の考えを書くことに課題がある。(図鑑の説明を読むことで、よく分かるようになった物語の部分と、その部分についてどのようなことが分かったのかを書く)
- ◆課題の解決に必要な情報収集の方法を身に付けることや、資料から読み取った情報を適切に活用することに課題がある。(資料集を活用するときの留意点、疑問に思ったことを調べるために必要な本の探し方、物語に書かれている事柄について図鑑の説明から分かることについて答える)

正答数分布



正答数分布の様子は全国の状況と同傾向

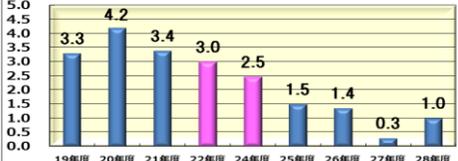
- ◆全国、大阪府とも8問を頂点とした右よりの山型を描いている。
- ◆大阪府は0~5問では、全国よりも正答数分布の割合は高い。

無解答率比較

無解答率は全国の状況を1.0ポイント上回った

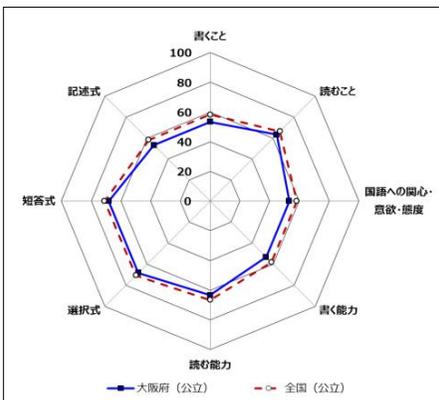
◆無解答率の全国との差を経年比較すると、平成24年度からの5年間は0.3~2.5ポイントになっている。今年度は全国状況を1.0ポイント上回り、昨年度より差は広がった。

中国B区分・無解答率全国差の推移



領域・観点・問題形式別

平成28年度 レーダーチャート



領域・観点・問題形式別の状況は概ね全国と同傾向

◆レーダーチャートの描くラインは、全国の状況とほぼ重なるように同傾向を示している。

◆今回の出題内容においては、全国、大阪府とも「書くこと」「関心・意欲・態度」「書く能力」「記述式」で低い値を示している。

【指導領域別正答率(対全国比)経年比較】



【評価観点別正答率(対全国比)経年比較】



【問題形式別正答率(対全国比)経年比較】

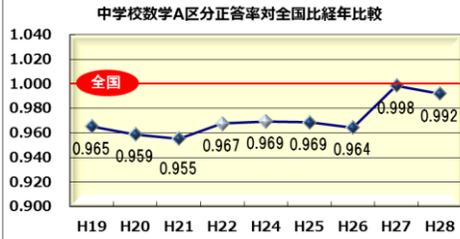
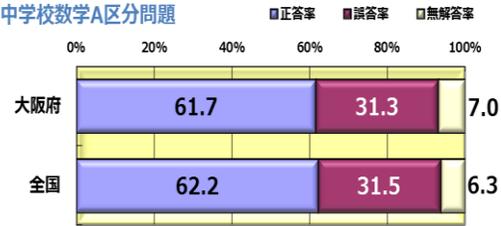


◆悉皆調査の結果と抽出調査の結果を、単純に経年比較することは難しいが、全国の平均正答率を1として、大阪府の平均正答率の割合を比較すると、領域、評価の観点、問題形式それぞれについて上のような傾向が見られる。(H19,20,21,25,26,27,28は悉皆調査, H22,24は抽出調査)

平均正答率は61.7%であり、短答式の無解答率が高く、各設問を個別に見ると継続的な課題が見られるものがあり、引き続き定着を図る取組を進める必要がある。

正答率比較

中学校数学A区分問題



平均正答率は全国を0.5ポイント下回った

◆ 全国平均正答率が62.2%であるのに対し、大阪府平均正答率は61.7%であり、0.5ポイント全国を下回った。

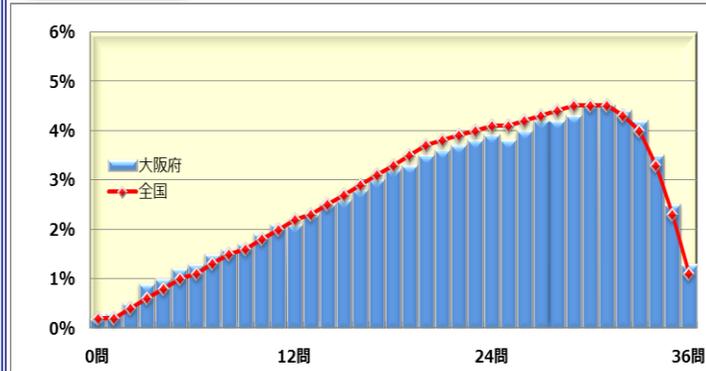
対全国比は昨年度を下回った

◆ 各年度における平均正答率は年度ごとの問題の難易度に左右されるため、それらの条件を除いて比較する必要がある。そこで、全国平均正答率を1とし、大阪府平均正答率との割合で比較した。平成22年度と24年度は抽出調査だったため、単純に経年比較することは難しい。今年度は0.992となり、昨年度を下回った。

具体的な課題等

- ◇ 正の数と負の数の加法の計算は、相当数の生徒ができていない。 $(-3+(-7))$ を計算する
- ◇ 比例の関係を表す表から変化や対応の特徴を捉え、 x の値に対応する y の値を求めることは、相当数の生徒ができていない。(比例の表を完成させる)
- ◆ 証明の必要性和意味を理解することに課題がある。(証明で用いられている図が考察対象の図形の代表であることについて、正しい記述を選ぶ)
- ◆ 反比例のグラフ上の点の座標から、 x と y の関係を式で表すことに課題がある。(反比例のグラフから式を求める)
- ◆ 資料を整理した表から最頻値を読み取ることに課題がある。(読んだ本の冊数と人数の関係をまとめた表から、読んだ本の冊数の最頻値を求める)

正答数分布



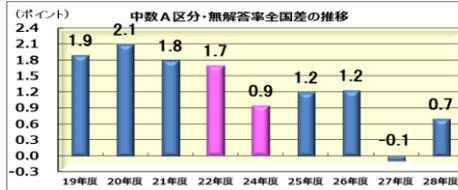
正答数分布の様子は全国と同傾向

- ◆ 全国は29~31問を、大阪府は30,31問を頂点とした右よりの山型を描いている。
- ◆ 大阪府は1~11問, 32~36問では、全国よりも正答数分布の割合が高い。

無解答率比較

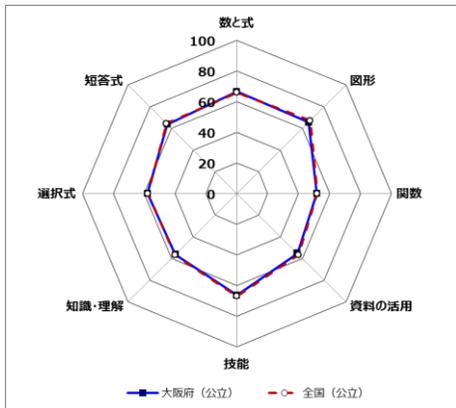
無解答率は全国の状況を0.7ポイント上回った

◆ 無解答率の全国との差を経年比較すると、平成24年度からの5年間は-0.1~1.2ポイントになっている。今年度は全国平均より0.7ポイント上回り、昨年度より差は広がった。



領域・観点・問題形式別

平成28年度 レーダーチャート



領域・観点・問題形式別の状況は概ね全国と同傾向

◆ レーダーチャートの描くラインは、全国平均とほぼ重なるように同傾向を示している。

◆ 今回の出題内容においては、全国、大阪府とも「数と式」「図形」「技能」でやや高く、「関数」「資料の活用」でやや低い値を示している。



◆ 悉皆調査の結果と抽出調査の結果を、単純に経年比較することは難しいが、全国平均正答率を1として、大阪府平均正答率の割合を比較すると、領域、評価の観点、問題形式それぞれについて上のような傾向が見られる。(H19,20,21,25,26,27,28は悉皆調査, H22,24は抽出調査)

平均正答率は43.1%であり、問題を解決する方法を数学的に説明することや、与えられた情報から必要な情報を選択し、数学的に表現することに課題がある。

正答率比較

中学校数学B区分問題

■正答率 ■誤答率 □無解答率



平均正答率は全国を1.0ポイント下回った

◆全国の平均正答率が44.1%であるのに対し、大阪府の平均正答率は43.1%であり、1.0ポイント全国を下回った。

対全国比は昨年度を下回った

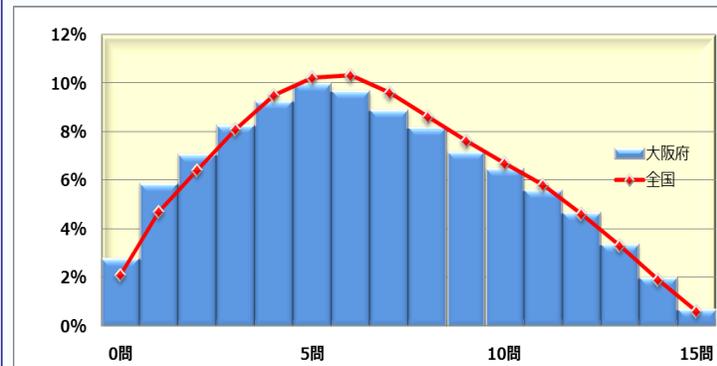
◆各年度における平均正答率は年度ごとの問題の難易度に左右されるため、それらの条件を除いて比較する必要がある。そこで、全国の平均正答率を1とし、大阪府の平均正答率との割合で比較した。平成22年度と24年度は抽出調査だったため、単純に経年比較することは難しい。今年度は0.977となり、昨年度を下回った。



具体的な課題等

- ◆与えられた式を用いて、問題を解決する方法を数学的に説明することに課題がある。(文字を使って手順通りに求めた数から最初に決めた数を当てて方法を説明する)
- ◆前提となる条件が不足している場合に、加えるべき条件を判断し、それが適している理由を説明することに課題がある。(x=4のときy=9になるように、xとyの間の関係を書き加えることについて、正しい記述を選び、その理由を説明する)
- ◆図形の性質について筋道を立てて証明することに課題がある。(二つの辺の長さが等しい事を、三角形の合同を利用して証明する)
- ◆与えられた情報から必要な情報を選択し、数学的に表現することに課題がある。(25.5cmの靴が貸し出された回数との相対度数を求める式を書く)

正答数分布



正答数分布の様子は全国の状況と同傾向

- ◆全国は6問、大阪府は5問を頂点とした左よりの山型を描いている。
- ◆大阪府は0~3問、12~15問では、全国よりも正答数分布の割合が高い。

無解答率比較

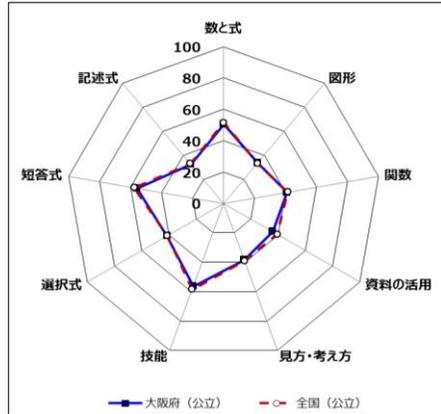
無解答率は全国の状況を1.3ポイント上回った

◆無解答率の全国との差を経年比較すると、平成24年度からの5年間は0.5~3.7ポイントになっている。今年度は全国の状況を1.3ポイント上回り、昨年度より差は広がった。



領域・観点・問題形式別

平成28年度 レーダーチャート



領域・観点・問題形式別の状況は概ね全国と同傾向

◆レーダーチャートの描くラインは、全国の状況とほぼ重なるように同傾向を示している。

◆今回の出題内容においては、全国、大阪府とも「図形」「資料の活用」「記述式」で特に低い値を示している。



◆悉皆調査の結果と抽出調査の結果を、単純に経年比較することは難しいが、全国の平均正答率を1として、大阪府の平均正答率の割合を比較すると、領域、評価の観点、問題形式それぞれについて上のような傾向が見られる。(H19,20,21,25,26,27,28は悉皆調査、H22,24は抽出調査)

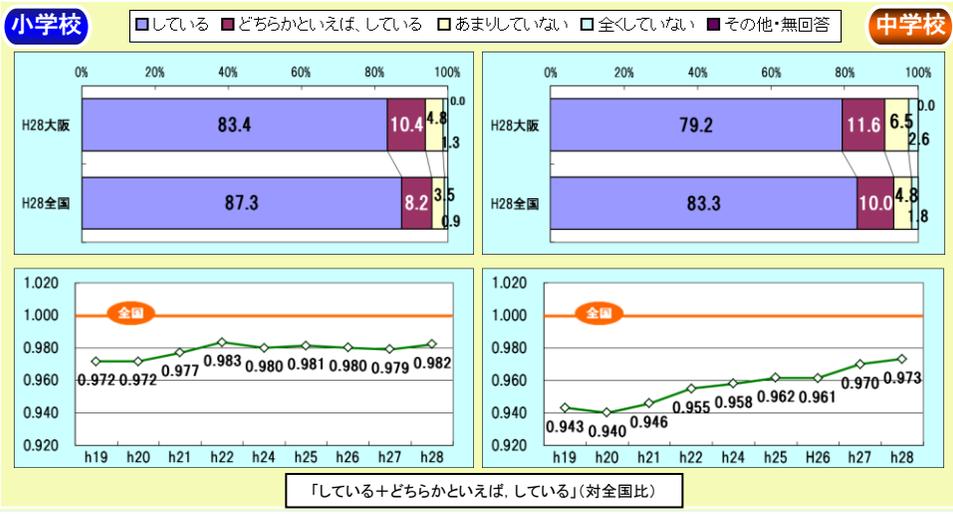
◆大阪の子どもたちの様子 (公立小・中学校) - 児童・生徒質問紙調査より - No.1

◆帯グラフの数値はすべて%表示です。
 ◆折れ線グラフの数値(対全国比)は、大阪府/全国で算出した値です。

1 朝ごはん

Q: 朝食を毎日食べていますか?

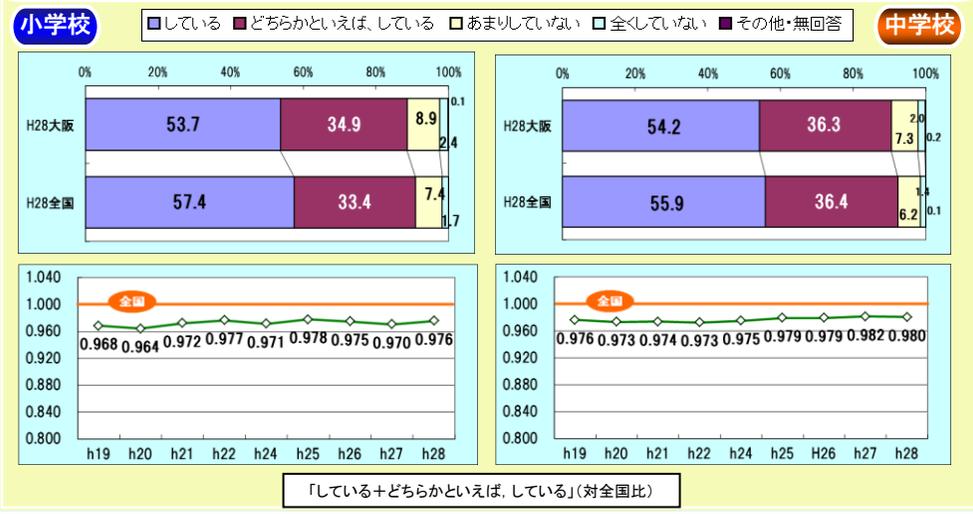
・小・中学校ともに、「朝食を毎日食べている」児童・生徒の割合は、全国の状況を下回っている



2 起床時刻

Q: 毎日、同じくらいの時刻に起きていますか?

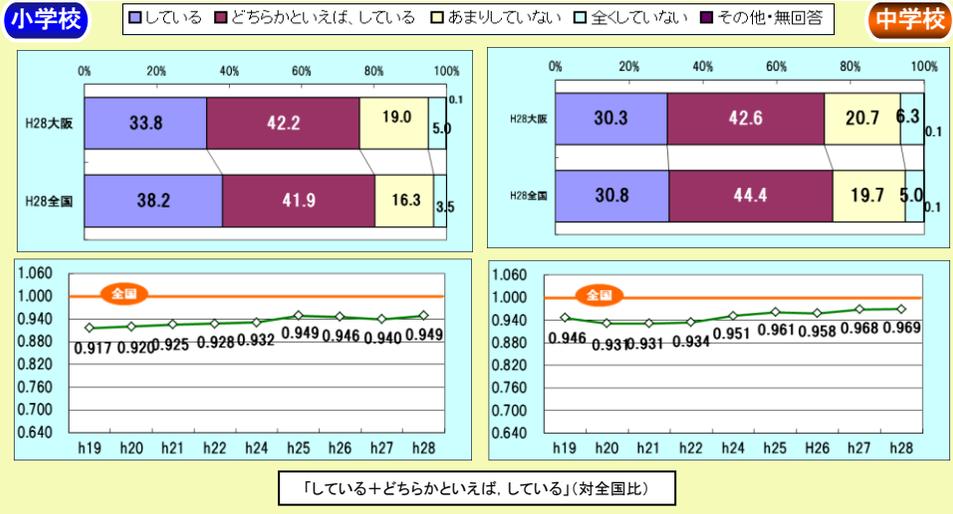
・小・中学校ともに、「毎日、同じくらいの時刻に起きている」児童・生徒の割合は、全国の状況を下回っている



3 就寝時刻

Q: 毎日、同じくらいの時刻に寝ていますか?

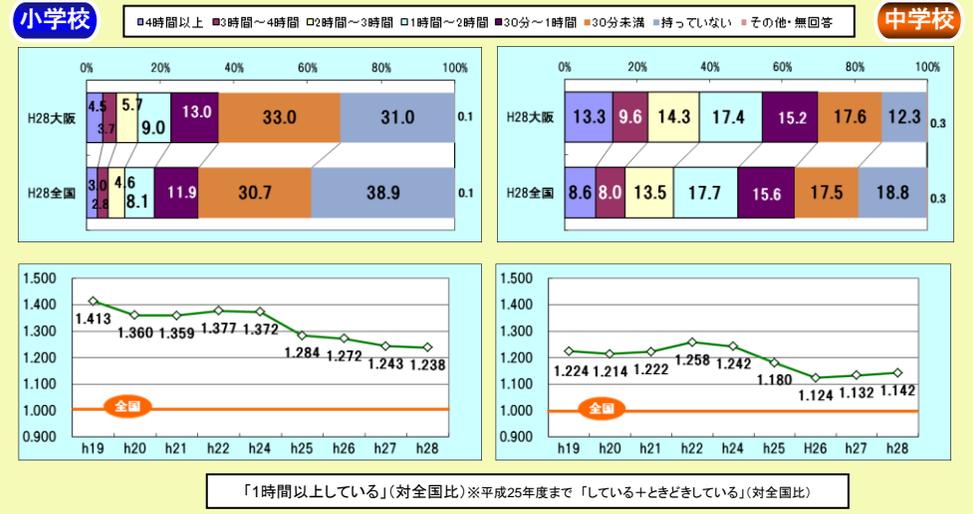
・小・中学校ともに、「毎日、同じくらいの時刻に寝ている」児童・生徒の割合は、全国の状況を下回っている



4 携帯電話やスマートフォンの使用

Q: 普段(月～金曜日)、どれくらい携帯電話などで通話やメール等をしますか?

・携帯電話やスマートフォンで通話やメール、インターネットをする時間は、小・中学校ともに全国の状況よりも長い傾向にある ※ 質問項目の文言が平成26年度から変更

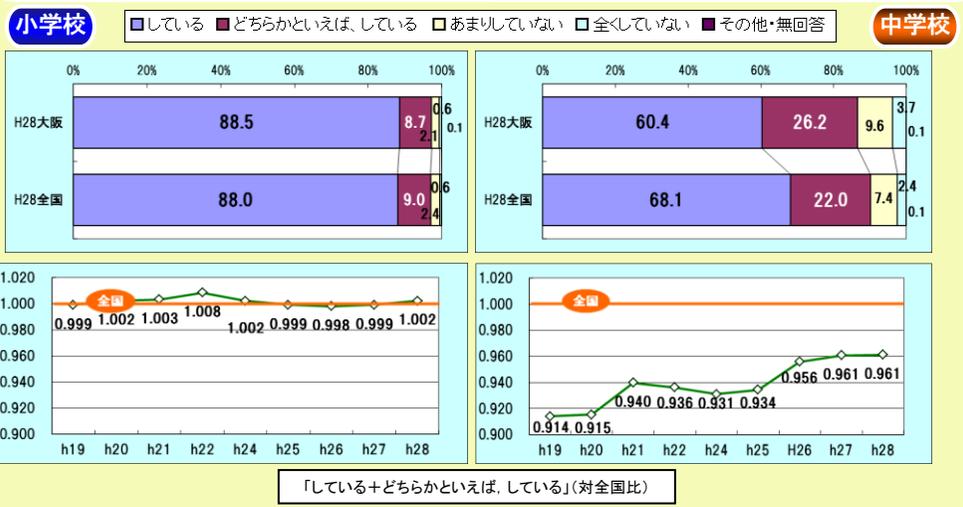


◆帯グラフの数値はすべて%表示です。
 ◆折れ線グラフの数値(対全国比)は、大阪府/全国で算出した値です。

5 学校の宿題

Q: 家で学校の宿題をしていますか?

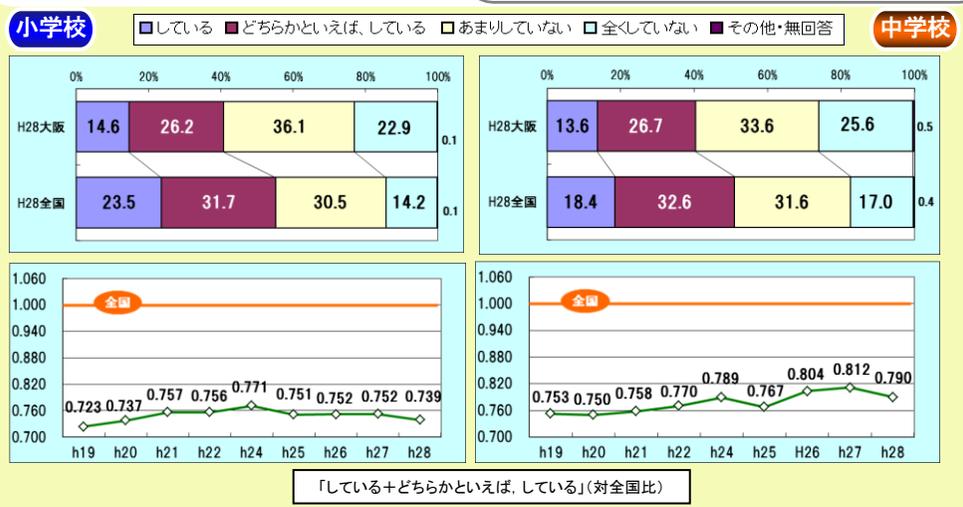
・家で学校の宿題をしている割合は、中学校において全国
 の状況を下回っている



6 授業の復習

Q: 家で学校の授業の復習をしていますか?

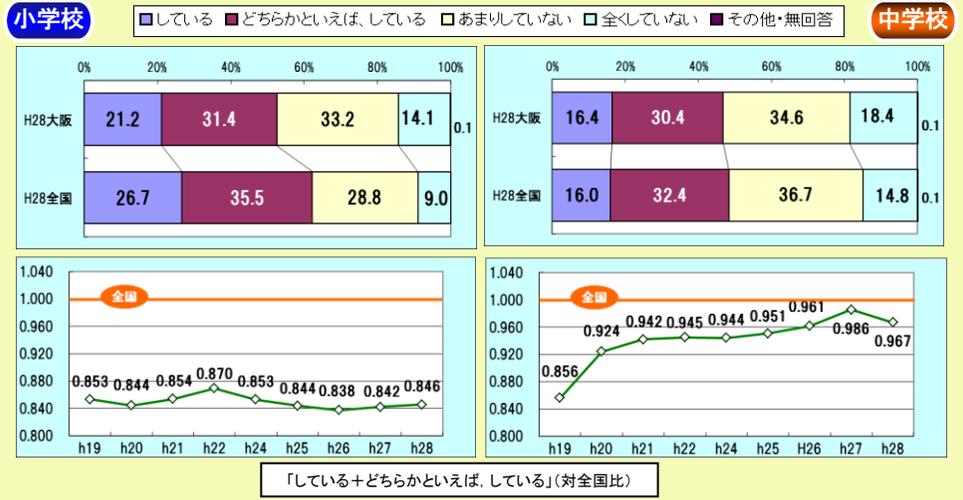
・家で学校の授業の復習をしている児童・生徒の割合は、
 小・中学校ともに全国の状況を下回っている



7 自主的・計画的な家庭学習

Q: 家で自分で計画を立てて勉強をしていますか?

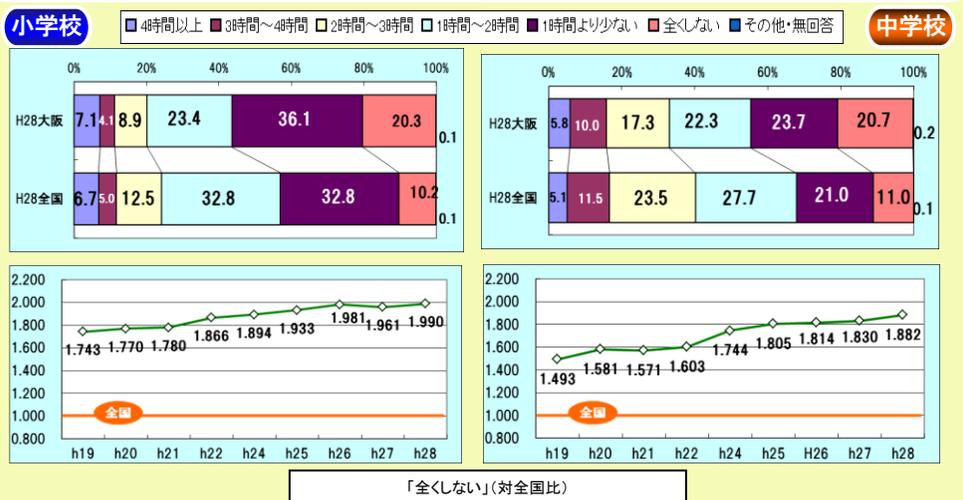
・「自主的・計画的に家庭学習に取り組んでいる」児童・生徒
 の割合は、全国の状況を下回っている



8 休日の家庭学習

Q: 土曜日や日曜日など学校が休みの日に、1日あたりどれくらいの時間、勉強をしますか?

・「休日に家庭学習を全くしない」児童・生徒の割合は、全国
 の状況を上回っており、小・中学校とも対全国比は上昇する傾
 向にある



◆大阪の子どもたちの様子 (公立小・中学校) - 児童・生徒質問紙調査より - No.3

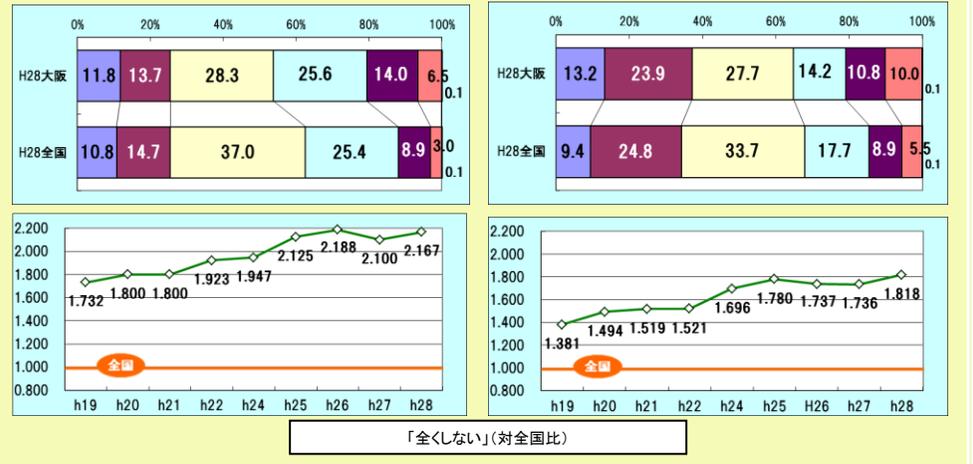
◆帯グラフの数値はすべて%表示です。
◆折れ線グラフの数値(対全国比)は、大阪府/全国で算出した値です。

9 1日あたりの勉強時間

Q: 学校の授業時間以外に、普段(月～金曜日)、1日あたりどれくらいの時間、勉強しますか?

・「普段、家庭学習に全く取り組まない」児童・生徒の割合は、小・中学校とも全国の状況を上回っている

小学校 3時間以上 2時間～3時間 1時間～2時間 30分～1時間 30分より少ない 全くしない その他・無回答 **中学校**

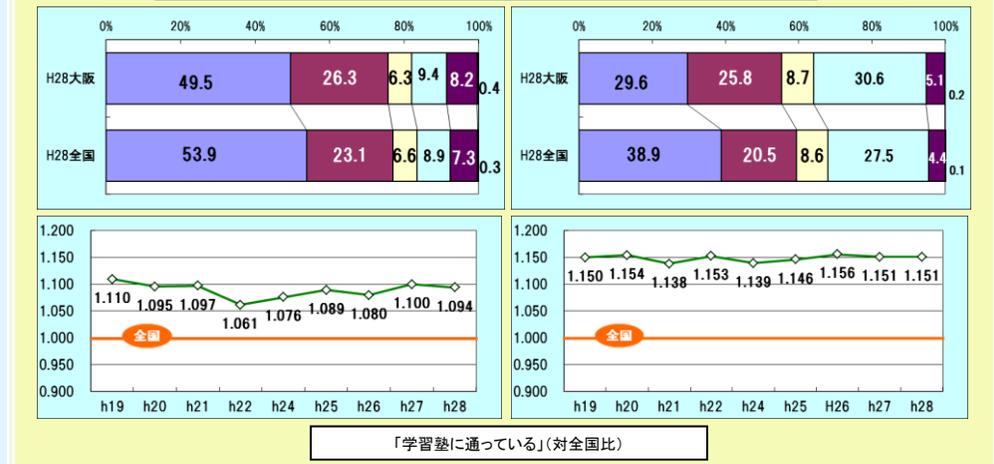


10 学習塾等での勉強

Q: 学習塾(家庭教師を含む)で勉強をしていますか?

・小・中学校ともに、通塾率は全国の状況を上回っている

小学校 1 学習塾に通っていない 2 学校の勉強より進んだ内容を塾で勉強している 3 学校の勉強でよく分からなかった内容を塾で勉強している 4 上記2、3の両方の内容を塾で勉強している 5 塾で勉強しているが、上記2、3の内容のどちらともいえない 6 その他・無回答 **中学校**

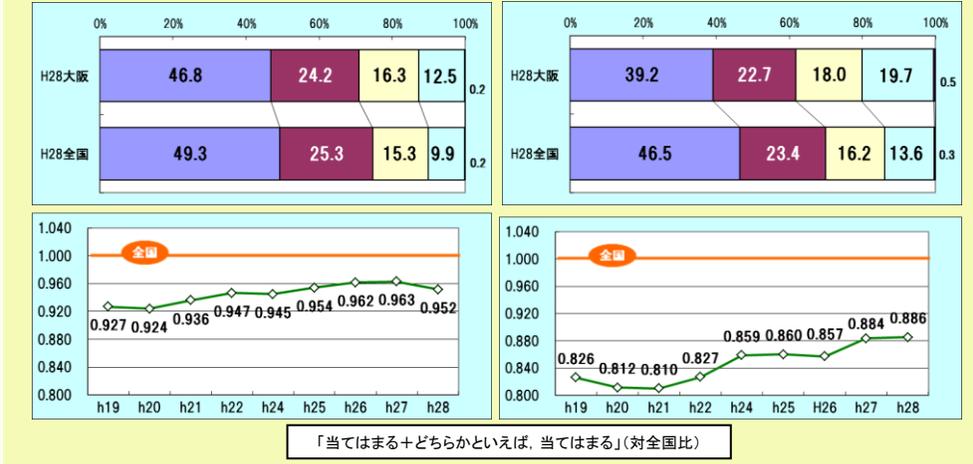


11 読書の好き嫌い

Q: 読書は好きですか?

・読書の好きな児童・生徒の割合は、全国の状況を下回っているが、中学校の対全国比は上昇する傾向にある

小学校 当てはまる どちらかといえば、当てはまる どちらかといえば、当てはまらない 当てはまらない その他・無回答 **中学校**

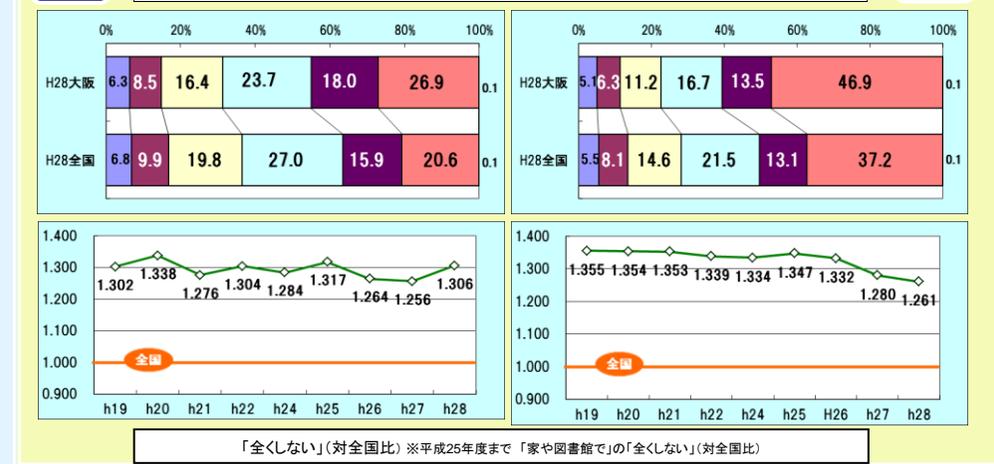


12 読書の時間

Q: 学校の授業時間以外に、普段(月～金曜日)、どれくらいの時間、読書をしますか?

・「普段、学校の授業時間以外に読書を全くしない」児童・生徒の割合は、小・中学校とも全国の状況を上回っているが、中学校は全国平均に近づく傾向にある

小学校 2時間以上 1時間～2時間 30分～1時間 10分～30分 10分より少ない 全くしない その他・無回答 **中学校**



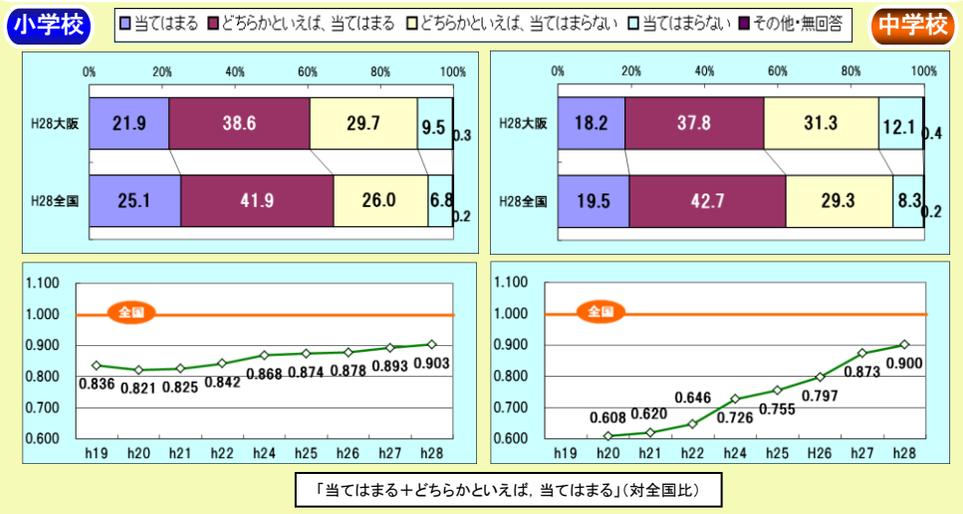
◆大阪の子どもたちの様子（公立小・中学校）－ 児童・生徒質問紙調査より － No.4

◆帯グラフの数値はすべて%表示です。
 ◆折れ線グラフの数値（対全国比）は、大阪府/全国で算出した値です。

13 国語の授業について

・国語の授業で、「自分の考えを話したり、書いたりしている」と回答した割合は、全国の状況を下回っているが、小・中学校とも対全国比は上昇する傾向にある

Q：国語の授業で目的に応じて資料を読み、自分の考えを話したり、書いたりしていますか？

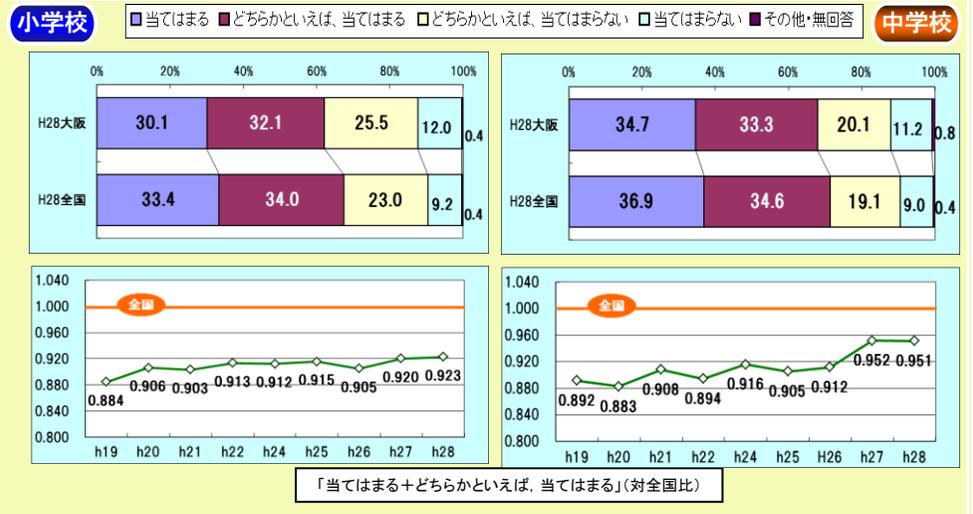


14 算数・数学の授業について

・算数・数学の学習内容を、普段の生活や将来のことに結び付けて意義付けている児童・生徒の割合は、全国の状況を下回っている

Q：算数の授業で学習したことを普段の生活の中で活用できないか考えますか？（小学校）

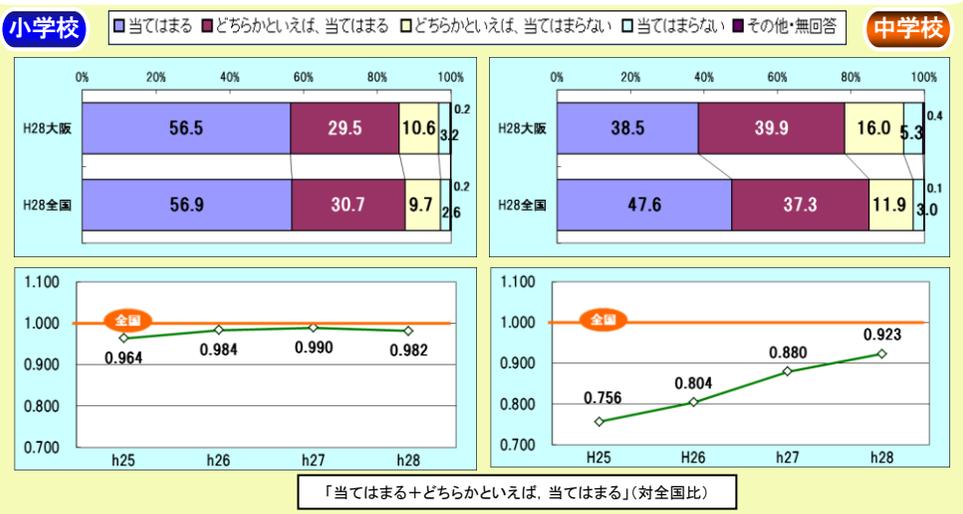
Q：数学の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか？（中学校）



15 目標の提示

・小・中学校ともに、授業の中で「目標が示されている」と捉えている児童・生徒の割合は、全国の状況を下回っているが、中学校の対全国比は上昇する傾向にある

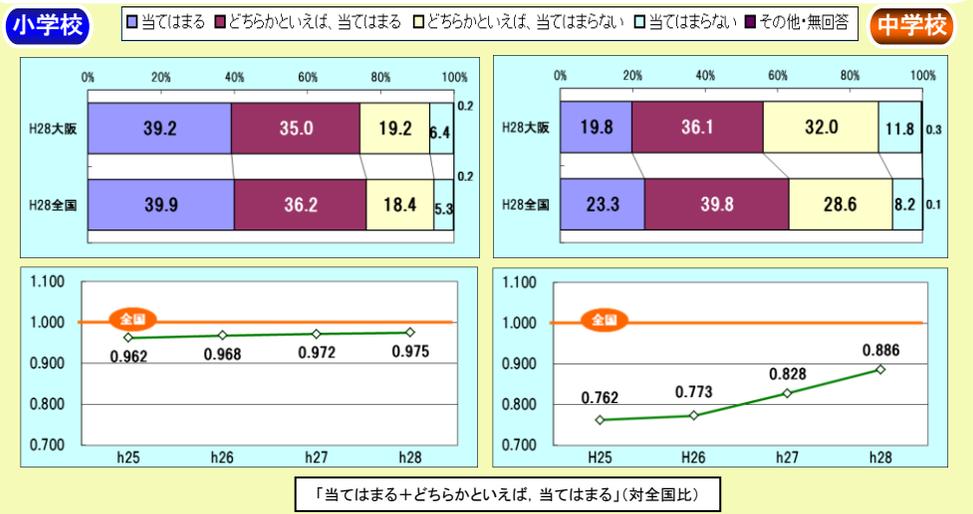
Q：普段の授業では、授業の中で目標（めあて・ねらい）が示されていると思いますか？



16 振り返る活動

・小・中学校ともに、授業の中で「振り返る活動が行われている」と捉えている児童・生徒の割合は、全国の状況を下回っているが、小・中学校とも対全国比は上昇する傾向にある

Q：普段の授業では、授業の最後に学習内容を振り返る活動をよく行っていると思いますか？

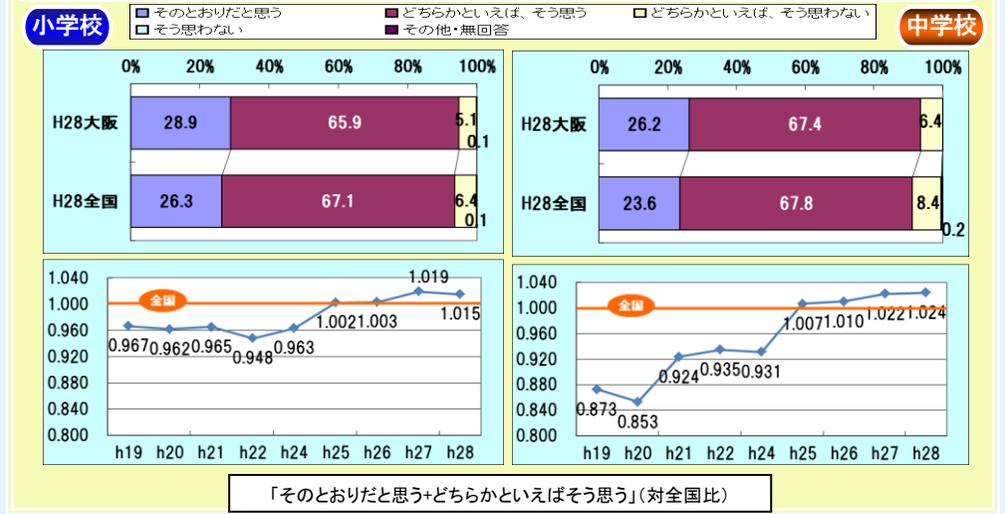


◆帯グラフの数値はすべて%表示です。
 ◆折れ線グラフの数値(対全国比)は、大阪府/全国で算出した値です。

1 学習への熱意

Q: 熱意を持って勉強していると思いますか?

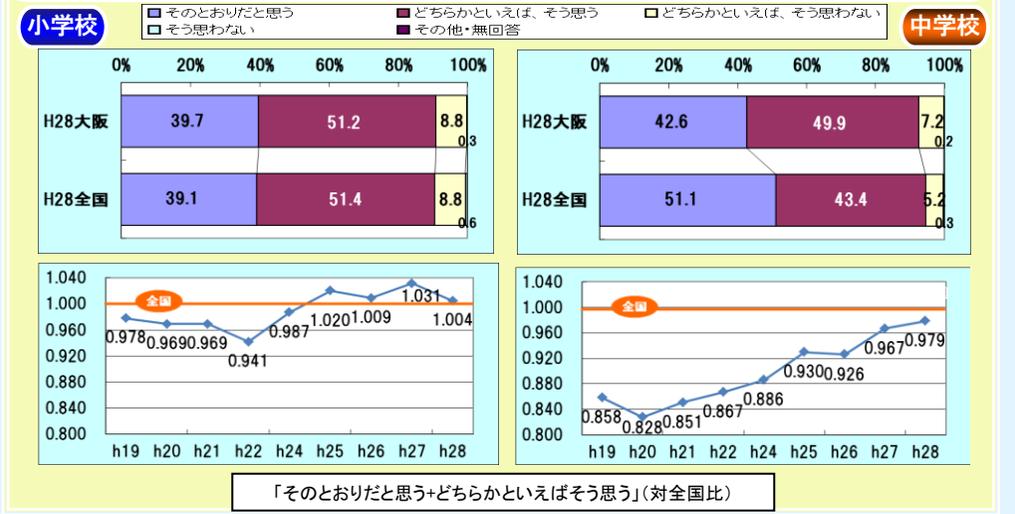
「児童・生徒は熱意を持って勉強している」と捉えている学校の割合は、小・中学校ともに全国を上回っている



2 授業中の落ち着き

Q: 授業中の私語が少なく、落ち着いていると思いますか?

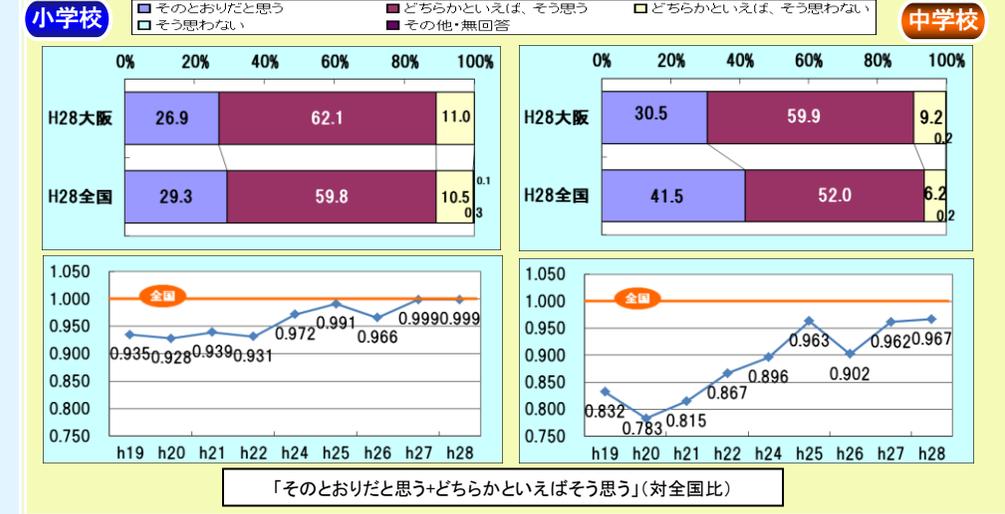
「授業中の私語が少なく、落ち着いている」と捉えている学校の割合は、小学校では全国を上回っている。中学校では下回っているが、対全国比は上昇する傾向にある



3 礼儀正しさ

Q: 児童・生徒は礼儀正しいと思いますか?

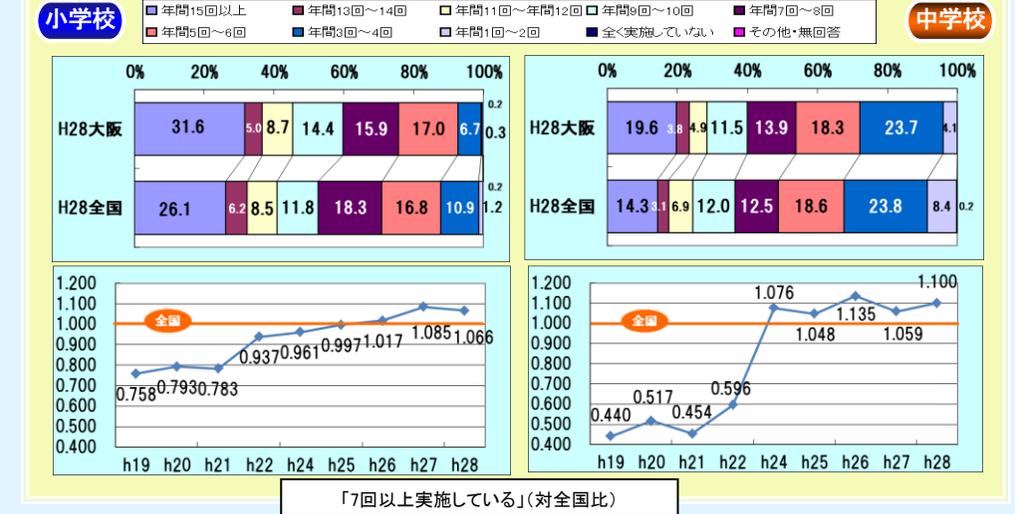
「児童・生徒は礼儀正しい」と捉えている学校の割合は、小学校は全国の状況とほぼ変わらないが、中学校では全国を下回っている



4 校内研修

Q: 授業研究を伴う校内研修を前年度、何回実施しましたか?

授業研究を伴う校内研修の実施回数が7回以上の割合が、小・中学校ともに全国の状況を上回っている

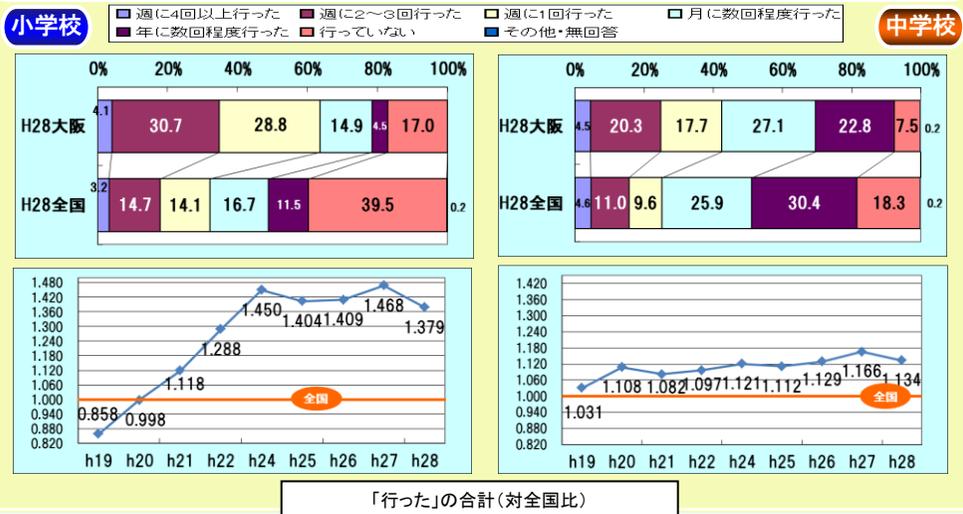


◆帯グラフの数値はすべて%表示です。
◆折れ線グラフの数値(対全国比)は、大阪府/全国で算出した値です。

5 放課後の活用

Q: 補充的な学習サポートを実施していますか?

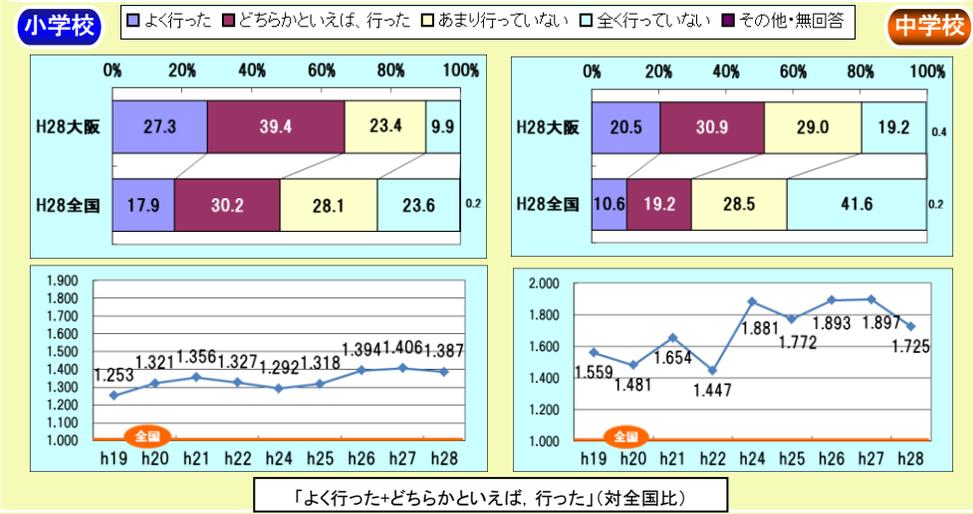
- ・放課後の学習サポートの実施状況は、小・中学校ともに全国の状況を上回っている
- ・特に小学校においては、大きく上回っている



6 授業サポート

Q: ボランティア等による授業サポート(補助)を行いましたか?

- ・ボランティア等による授業サポートの実施状況は、小・中学校ともに全国の状況を大きく上回っている



7 PTAや地域の人参加

Q: 学校の諸活動にボランティアとして参加してくれますか?

- ・PTAや地域の人参加の学校が行う教育活動への参加状況は全国の状況を下回っている

